

使徒言行録 11 章 1 節～11 節。さて、使徒たちとユダヤにいる兄弟たちは、異邦人も神の言葉を受け入れたことを耳にした。ペトロがエルサレムに上って来たとき、割礼を受けている者たちは彼を非難して、「あなたは割礼を受けていない者たちのところへ行き、一緒に食事をした」と言った。そこで、ペトロは事の次第を順序正しく説明し始めた。「わたしがヤッファの町にいて祈っていると、我を忘れたようになって幻を見ました。大きな布のような入れ物が、四隅でつるされて、天からわたしのところまで下りて来たのです。その中をよく見ると、地上の獣、野獣、這うもの、空の鳥などが入っていました。そして、『ペトロよ、身を起こし、屠って食べなさい』と言う声を聞きましたが、わたしは言いました。『主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は口にすることがありません。』すると、『神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない』と、再び天から声が返って来ました。こういうことが三度あって、また全部の物が天に引き上げられてしまいました。そのとき、カイサリアからわたしのところに差し向けられた三人の人が、わたしたちのいた家に到着しました。

ペトロは主に導かれ、カイサリアのローマの百人隊長コルネリウス邸で主イエスの福音を語った。彼らの上に聖霊が降り、異言を語り、神を賛美した。ペトロは「わたしたちと同様に聖霊を受けたこの人たちが、水で洗礼を受けるのを、いったいだれが妨げることができますか」と言い、彼らに洗礼を授けた。喜ばしく、感動的な洗礼式であったろう。

このことがエルサレム教会の使徒たちや信者たちに伝えられた。ペトロたち一行がエルサレム教会に帰って来た時、ユダヤ教の律法に従って割礼を受けた信者たちがペトロに「あなたは割礼を受けていない者たちのところへ行き、一緒に食事をした」と非難した。ペトロはエルサレム教会の第一人者であったが、彼に対して非難が起こったというとは興味深い。教会は、権威ある人をも堂々と批判できる素地があったということで、開かれた教会の姿を伝えている。またエルサレム教会は、神の選民として割礼を受けたイスラエルの民は、割礼のない異邦人を汚れた人と見なし、一緒に食事をするのが許されないという律法を厳格に守っていたユダヤ教イエス派であったことを示している。

ペトロは非難を受け、事の次第を順序正しく説明した。使徒言行録の著者は同じことを繰り返し三回も書いている。異邦人伝道がいかにか革新的なことであったかを伝えている。ペトロがヤッファの町で祈っていると、恍惚状態の中で幻を見た。大きな布のような入れ物が、四隅でつるされて、天から下りて来た。その中には、地上の獣、野獣、這うもの、空の鳥などが入っていた。そして、「ペトロよ、身を起こし、屠って食べなさい」と言う声を聞いた。私は「主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は口にすることがありません』と断った。すると「神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない」という声が、再び天から返って来た。こういうことが三度あって、全部の物が天に引き上げられてしまった。その時、カイサリアから差し向けられた三人の人が、私たちのいた家に訪ねて来た。

「神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない」という御言葉が決定的な意味を持っている。神は全ての人を「よし」として是認している。神の是認を信じるから、差別や抑圧に対し、まして命を否定することに対し「ノー」と言うのである。